

# ふれあい通信



長南町長  
平野貞夫

最近、私のところへ町民の方がよく見えられるようになります。話はタイケン学園の話題に関することです。「町長は独断でタイケン学園の誘致を進めている。大きな財政負担が伴う条件を受け入れて何が何でも誘致する考えでいるようだ。」というような内容です。事実ではなく困ったものですが、どうやら、この話はだいぶ広まっているようです。

私は、先月号のふれあい通信でも述べましたが、今この長南町に学校が来るという後にも先にもない千載一遇のチャンスが訪れているわけですから、これを生かさない手はないと思っています。

4つの小学校が一気に空き、その活用方法を決めるのは中々難

しいところです。それぞれの跡地は、各地域の中心にあり、この活用の仕方によつては、地域の生活環境も大きく変わることになります。ですが、学校であれば、今までの環境との違和感もなく、スムーズに受け入れられるので何よりも、同じ使い方であれば地域格差が生じることもないわけですので、私は、この学校誘致が跡地活用の最善の方法と考えたところであります。

これから、学校誘致に向けて動き出すわけですが、まずはタイケン学園とはどんな学校なのかを見極める必要があり、それを皆様と共有することが何よりも大事であると思います。その上で、教育環境、地域環境、学校施設等の現況調査、経済効果などを調査し、それぞれの役割を踏まえながら個々の具体的な協議・交渉に入つていくことになります。ある程度の結果が出

ましたら、町へのメリット・デメリットを整理した中で、タイケン学園の誘致が本町にとって有益となり、町の活性化と発展につながるものであれば、誘致する方向で考えたいと思っています。その場合は、町民の皆様に改めて提案させていただき、御意見をいただきたいと思っています。

一方、誘致が本町にとつて財政負担だけが大きく、メリットがないと判断すれば、誘致を断念させていただくことになります。また、タイケン学園側で長南町が学校環境に相応しくないと判断すれば、誘致を断ることもあるわけであります。

このように、不確定な部分が多い中ではありますが、町民の皆様が適切に判断できるよう、執行部一丸となつて協議・交渉に臨んで行きたいと考えています。

冒頭申し上げましたように、一

SADA<sup>SMILE</sup>  
No.15



区長会議で説明をする平野町長

部の人気がグループを作り、調査、研究、議論をしているようです。それ自体関心を持つていただきたいいるわけですからありがたいことなのですが、どうも個々の考え方や思いを町民の皆さんに吹聴し、やたらに住民感情をあおつてゐるようです。それは、私のところに来る方々が言つておられますので、本当なのでしょう。

町民の皆さんには、これら的情報に惑わされずに、私からの提案と説明を聞く機会を待つていていただきたいと思つています。今は何一つ確定しているものはないわけですので、よろしくお願ひいたします。

なお、今後も「ふれあい通信」で隨時ご報告させていただきます。